研究レポート

原町小　研究だより

令和8年10月5日（月）
目黒区立原町小学校
研究推進部

図工研究授業『造形遊びプリンカップで並べて積み上げて』を行いました。

９月１８日（金）の６時間目に、図工の研究授業（２年１組）として１時間で行える造形遊びの授業、児童が自己選択できる授業をテーマにして行いました。

【授業の様子】

授業のスタートでは、用意された１０００個以上のプリンカップを目の前にして児童から歓声が上がりました。①聞く②やる③やめる（片付ける）という流れで授業が行われました。『友達と』『一人でも』『工作しない』『わざと壊さない』『なかよく』『カメラにとってもらう』という条件を聞いてから、すぐに造形活動が始まりました。

日頃の教室ではなく、４階の空き教室での授業だったので、子ども達は、教室いっぱいの広々とした床面を使うことができました。思い思いの場所を選び、誰と活動するかを選び、どんな形にしようか試行錯誤しながら活動に取り組む姿が見られました。慎重に積み上げたり崩れて頭を抱えたりしながら、のびのびと造形遊びに取り組んでいました。また、子どもたちの内省する真剣な眼差しも見ることができました。授業の終わりに児童に選択式で感想を尋ねると「もっとやりたい。」「もうちょっとやりたかった。」にたくさん手が挙がりました。

【研究協議会の様子】

今回は、協議会の後に授業者の図工専科（寄田主任教諭）によるワークショップを行いました。協議会では、低、中、高学年の３グループに分かれて造形活動における評価の観点について教員同士で話し合いをしました。ワークショップでは、はさみと紙を使ったグループワークを行いました。道具を使う時には、最初に、安全のための約束をすること、授業のねらいに合わせて使う素材の使い方の条件を示すこと、そして完成した作品のクラス全体への共有の仕方などを教えていただきました。

授業者より

造形遊びの授業を行う上で、場の設定をすること、工作をしないという条件を提示すること、季節感のある物、なるべくゴミにならず使いまわせる素材ということを意識しています。児童には、「もとに戻せない物はダメ。」と分かりやすく伝えています。低、中、高学年で同じことをやってよいが要素や条件を増やすなどして、めあては発達段階に応じたものにします。授業時間に片付けの時間を含めることや写真やビデオなどの記録をたくさん撮っておくと記憶を呼び覚ますことができ、評価に活かすこともできます。児童がもうちょっとやりたい、もっとやりたいくらいのあえての短い時間設定で行うことで、児童が自ら行う『自走する児童』を目指しています。